

アンケート結果の概要

(1) 統合について

<児童生徒>

- 統合前に、友達ができるか等の心配なことがあったと4割が回答していたが、その心配は解消され9割が楽しみや期待が実現したと回答。
- 多くの児童生徒が統合で人数が増えたことに賛成し(88%)、交友関係が広がってよかったと回答。(73%)
- 合同校外学習などの事前交流について、多くの児童生徒が他校の児童生徒との交流ができ、友達できてよかったと回答。(91%)
- 児童生徒数が増えたことで、授業で多くの意見が出るようになり、多様な考えがあることがわかった。また、学校行事がよりよいものになり、一層楽しくなったと回答。
- スクールバスでの通学は、通学が楽になったという回答が一番多い。
- 児童生徒数が増えたことにより、新しい人間関係の構築が難しくなった。

<保護者>

- 統合前に、他校の児童生徒との人間関係等の心配なことがあったと5割が回答していたが、その心配は解消され9割が期待が実現したと回答。
- 交友関係により影響が見られるなど、7割が統合してよかったと回答。
- スクールバスの通学は、6割の保護者が通学が楽になった、生活リズムが改善されたと回答。
- 人数が増え、切磋琢磨できる環境になり、競争心や様々な体験ができた。
- 人数が増えた分、きめ細かいフォローがなくなったように感じる。
- 対等の統合ではなく、規模の小さな学校の児童生徒が肩身の狭い思いをした。
- 学童についても、統合と同時に環境を整えてほしい。

<教職員>

- 多くの教職員が統合により学校としての一体感が形成され(97%)、良い変化が見られたと回答。(83%)
- 小規模校の固定化された人間関係が解消され、より良い人間関係が形成された。
- 人数が増えたことで、切磋琢磨したり協力したり、行事や授業に活気が出た。
- 人数が増え、多様な考えに触れたり友達と協力したりする活動ができた。
- 職員が増えたため、一人当たりの分掌が軽減した。働き方改革につながった。
- 部活動の選択の幅が広がった。各部活動の人数が増えて活発になった。
- 教科担当が複数になり、教科部会が持てるようになった。
- 新たな人間関係づくりに難しさを感じる児童生徒がいる。
- 統合前の共通した指導が必要であった。(校則、ルールの統一に課題)
- 統合前の規模の大きな学校ベースの指導に偏ってしまった。

(2) 特色ある学校づくりについて

【小中一貫教育】

<児童生徒>

- 「周南っ子」の約束を意識して生活していると、8割の児童生徒が回答。
- ほとんどの児童生徒が、自分たちの住んでいる「周南」の地域が好きと回答。
(95%)
- 多くの児童生徒が、後輩から憧れられる先輩(中学生)になりたいと回答。
(89%)
- 中学生は、「中学校に進学することに不安があった」と7割が回答。小学生については、4割が「不安がある」と回答。
- 中学生は、入学に際しての不安が和らいだ理由として、「中学校のことを知っているから(先輩、学校の様子、先生)」が一番多く、続いて「小中での交流や行事、合同での学習を経験しているから」と回答。
- 中学生は、小学校時代に中学校の先生が教えに来てくれたことで、「入学したときに教わった先生がいて授業が受けやすかった」「中学校の授業の雰囲気を感じる事ができた」と回答。小学校の先生が中学校の授業に来ることについては、「知っている先生だったので安心して質問ができる」と回答。
- 小学生の6割が、「中学生(先輩)に憧れる」と回答。
- 小学生は、中学校の先生が授業に来る良い点として、7割が「丁寧に詳しく教えてくれる」「中学校生活のことを話してくれる」と回答。

<教職員>

- 多くの教職員が、9か年の学びの約束、育てたい子どもの姿を意識して指導にあたっていると回答。(85%)
- 学びの約束によって子どもの学び方が定着していると、6割の教職員が回答。
- 多くの教職員が、合同学習や行事等の取り組みで、子どもたちの人間関係の構築に効果があると回答。(73%)
- 小中一貫教育による効果として、「中1ギャップの解消」「中学生になるときの不安の軽減」という意見が多い。
- 小学校からは、相互乗り入れ授業による効果として、より専門的に学ぶことができるという意見が多い。中学校からは、知っている先生に教えてもらうことの安心感がある。
- 小学校、中学校ともに行事等の兼ね合いで時数の確保が難しく、教職員の多忙感、負担が大きいという意見がある。
- 小中一貫教育の良さを生かすためには、職員の共通理解を図る場の設置、職員の配置(加配)、行事を通じた交流が必要という意見が多い。

【コミュニティ・スクール】

<学校運営協議会委員>

- 学校運営協議会において協議したことは、学校、保護者、地域の情報を共有できる場になった。
- 情報交換の場として設置した懇談会は、学校運営協議会の協議を充実させるためにも必要な場である。
- 水泳の見守り、校外学習の随行、実習授業の補助、環境美化等のボランティア活動は、学校や子ども達にとって役立った。また、学校と地域とのつながりを持つこともできた。
- 学校運営協議会日より、コミュニティ・カレンダー等の広報活動は、コミュニティ・スクールの周知に役立った。
- コミュニティ・スクールについて、子ども及び保護者、地域住民への広報活動が必要と感じる。
- 学校が困っていることに関しては支援ができたと思うが、既存の団体への声掛けにとどまり、地域活動にはまだ広がっていないように感じる。
- 地域住民が、学校の運営や子どもの学ぶ機会を創ることなどに、積極的に協力できるようなシステムの構築が必要である。
- 学校と地域のビジョンやイメージを全体で共有できると良い。